

SELP Vision 2030 事例紹介

2023.1.23掲載

たて糸とよこ糸が織り合い、 福祉の枠を超えて、人と人の絆をつなぐ

社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会
障害者自立支援施設 共栄作業所

SELP Vision 2030より、主に実現したチャレンジ

2



4



事業所紹介

所在地	三重県四日市市西日野町4070-1
法人名	社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会
施設・事業所名	障害者自立支援施設共栄作業所
事業種類	就労継続支援B型
主たる障害	知的障害
定員	37名(令和4年12月現在)

● 地元の隠れた名品を、日本全国に広める

共栄作業所は昭和52年に四日市市が設置・開所し、四日市市社会福祉協議会が運営している就労継続支援B型事業所です。三重県内で最初に作られた作業所で、歴史があり、障がいのある方が働いて生活する場として運営しています。

平成15年より利用者がバッグや小物などの織物を作り、市内の協力店舗やさまざまな催しなどで対面販売しています。また、自主製品を「共栄の織り®」として商標登録し、ブランド化して、令和元年8月より地元企業と協働してECサイト「織りの郷」を開設しました。

利用者が手織り機で色鮮やかな糸を織って布を作り、職員がカバンなどの布小物に加工して、共同作業で一つひとつ手作りしています。寺院向けの袈裟などのニッチな商品から、バッグ、ネックストラップ、名刺入れ、マフラーまで幅広いラインナップを展開しており、Instagramでアピールすると鮮やかな色合いも相まって熱い注目を集めています。

利用者が丹精を込めて織り上げる高品質な共栄の織り®は、地元のTV局や新聞などのメディアにも取り上げられて、日本全国から問い合わせや注文が相次いでいる状況です。

※「共栄の織り®」:登録商標第6243079号



四日市市社協 渡辺事務局長と共栄作業所 藤田所長

SELP Vision 2030 事例紹介

2023.1.23掲載

● 良質な商品づくりが、利用者の生きがい

織りの作業は午前6人と午後5人の体制で回っていて、利用者の皆さんが楽しみながら意欲的に取り組んでいます。共栄の織り®は、一人ひとりの感性によって一つひとつに色合いや表情があって、手織りならではの風合いと温かみを感じさせるのも特徴的です。全国のお客様からご注文を受けること、高品質な製品づくりをとおして感動の声をいただくことが、利用者にとっての喜びや生きがいにつながっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、商品の対面販売や展示即売会が中止となりましたが、ECサイトを經由して共栄の織り®の受注量が増加しているため、安定した収益を確保しています。また、ICTを活用することで、職員の事務作業の効率化を図り、より質の高いサービスを提供することが可能となりました。

第3回共栄の織り展示会はWEBで開催し、ドローン撮影やYouTubeを活用した動画配信を行いました。さらなる展開として作業所での展示会を再開して、お客様の要望にきめ細かく対応したいと考えています。



● 地域との共存共栄で、新しい福祉を追求

共栄の織り®をより多くの人に知っていただけるよう、地域の企業や寺院関係者と『織りの郷(おりのさと)プロジェクト』を立ち上げました。また、参画する企業や寺院関係者からアイデアをいただいて、商品発送、ECサイト制作を共同運営しています。

この取り組みの最大の特徴は、作業所が人や企業を巻き込んで、障がいのある方の社会参加や自立支援につなげていることです。共栄の織り®の収益が利用者や連携企業に還元され、その一部が社会貢献に使われる仕組みをめざしています。地域との共存共栄によるプロジェクトを推進する上で、参画する個々の想いに的確に応え続けることが重要だと考え、月1回の定例会議をとおしてアイデアを出しあっています。

また、プロジェクト開設当初からSDGsを基本理念に置いて実践したことが、新しい福祉のカタチを伝えることにつながりました。織り手の心と、たて糸とよこ糸の織り合いで、福祉の枠を超えた本当の社会貢献をめざしています。



▲共栄の織り®ECサイト
「織りの郷」